

Weekly コラム

平成 29 年 11 月 21 日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4 号館 4 階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会)

Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

君に届け

宅配便の不在率は 23.5%(国交省の調べ)に達します。よって配達員の走行距離の約 4 分の 1 は再配達となり、再配達に年間約 1.8 億時間を費やしています。配達員の苛酷な労働環境を改善するため、値上げに踏み切った最大手のヤマト運輸ですが、より根本からこの状況を打開すべく、宅配業者と利用者双方から新たなサービスが展開されています。

宅配業者が人員削減、再配達防止策として注目する方法が自動運転車による無人配達です。ヤマト運輸が DeNA と共同で、AI と電気自動車の自動運転技術を組み合わせた物流サービスとして実証実験を行っているのが、無人宅配サービス「ロボネコヤマト」です。これは専用の自動車に保管ボックスを備え、案内に従って依頼者が荷物を受取る仕組みです。現時点で 2 つのサービスがあり、1 つ目は配送ルートに AI で最適化し、荷物の配送場所と配送時間を 10 分刻みで指定し、商品を受け取るサービスです。もう 1 つは指定場所付近の複数店の商品をインターネット上で購入し、商品を宅配してくれるサービスです。4 月から神奈川県の一部で実証実験が開始され、4 割以上のリピート率となる両サービスは 2018 年を目処に実用化、拡大を目指しています。原則として人間のドライバーが運転しますが、荷物の発送と受け取りには関与せず、将来の無人運転を想定しています。

消費者側の再配達防止策として最有力はやはり宅配ボックスです。今や新築マンションでは当たり前のように設置されるようになった宅配ボックスですが、その進化は既に宅配ボック

スの域を越えています。最大手のフルタイムシステムが提供する最新の宅配ボックスでは、食料配達やクリーニングの依頼、更にはカーシェアリングからレンタサイクルまで可能なものも出てきており、新居を探す際の条件にすら挙げられる様になってきました。既存のマンション・アパート等では、居住ルールに問題が無ければ、簡易な宅配ボックスが 5000 円前後で購入可能でドアなどにワイヤー等で固定する事で設置が可能です。戸建住宅においても埋め込み式やデザイン性に優れた物等、日々利用者のニーズに合わせた進化を続けています。また、自作の宅配ボックスも注目を集め、インターネットで作成方法が多く紹介されており、そのアイデアを見るのも面白いです。

他にも電子コインロッカーを介して商品の受け渡しを行うサービスや、ドローンでの配達、宅急便センターで受け取ると割引されるサービスなど、様々な再配達防止策に取り組んでいます。再配達問題の改善は宅配業者と利用者、そして経済にとって三方良しです。それぞれの予定や事情に合わせた配達方法を選択してみたいかがでしょうか。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

ウィークリーはメールでの配信も行っております。お手数ですが、「メール希望」・「配信停止希望」と件名にご入力の上、

skc-soudan@skc.ne.jp まで空メールをご送信ください。また、FAX ご不要の際は、その旨をお電話にてお申しつけください。